

神戸新聞
2021.1.4分

サラバ 東京 コロナ後の未来

「淡路島、ママが働きやすい」

社オフィスの移転や縮小を検討しているという。
1、よりはるかに小さなウィルスが、分厚い東京一極集中の壁に風穴をあけた。亀裂はさらに広がるか。

みんな、東京に疲れているのかもしれない。

職場で完全にテレワークが実施されたら？ 国土交通省が昨年実施した調査で、都内に暮らす4割が今と違う場所に引っ越したいと答えた。
通勤せず、パソコンを利用して在宅で働くスタイルが普及し、オフィスから入りがなくなってきた。東京では上場企業の4社に1社が本

3働く／下



一人娘の桜ちゃんさんと淡路島に移住した後藤弘美さん。淡路市久留麻、パソナファミリーオフィス（撮影・後藤弘美）

能の一部を淡路島に移転すると発表し、世間を驚かせた。3年後までに約1200人の社員が淡路島に移住するという。

後藤さんは小学1年の桜ちゃん(6)と暮らすシングルマザー。もともと東京に住んでいたのは子どもの教育のためだった。レベルの高い学校。豊富にそろった習い事。便利な交通網。選りすぐりの学童保育に通っている。バレエや空手、英語などの店も入ったことがな

移住で「真の豊かさ」探し

たが、今振り返ると、生ごの教室が無料で開かれていて、桜ちゃんは空手が活け、お習字も習った。職場近くの保育所に通うため、すし詰め都営三田線に揺られて45分。小さな桜ちゃんは大人たちの足元で、人波に流されまいと必死に足を踏ん張った。緊急事態宣言が出されたころ、東京は地震が続いた。夜中に強い揺れを感じ、親子は身を寄せ合う。「こんな時に、もし大災害が起きたら」

国交省によると、東京圏の人は他地域より賃金が高いが、通勤時間は長く、食事は短い傾向がある。「真の豊かさ」が実現できる社会へ。一極集中を正す。国交省によると、東京圏の人は他地域より賃金が高いが、通勤時間は長く、食事は短い傾向がある。「真の豊かさ」が実現できる社会へ。一極集中を正す。国交省によると、東京圏の人は他地域より賃金が高いが、通勤時間は長く、食事は短い傾向がある。「真の豊かさ」が実現できる社会へ。一極集中を正す。

(前川茂之)

環境はとても大切です。だが一番大切にしたいものが何かに気づいた時人は心にゆとりを持ち慈しむ気持ちの元にお互いを支え合うことができます。

コロナによってある部分思い出させてくれたことかもしれない

共にある時間を大切にしていきたいものです